

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2022

課題番号：16K02203

研究課題名（和文）&lt;教養教育&gt;に関する思想史研究—デモクラシー下の市民的資質の観点から

研究課題名（英文）Liberal arts education and citizenship

研究代表者

井柳 美紀（IYANAGI, Miki）

静岡大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：50420055

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、デモクラシーの進展する時代における市民的資質との関連で、教養の意義を政治思想的文脈から考察することである。特に、デモクラシーが進展する中で「政治教育」をめぐる具体的な議論が登場した19世紀イギリスを中心に、デモクラシーにとっての市民的資質としての教養、そのための政治体制、学校教育、大学教育、政治的中立性などについて検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今日、主に投票権年齢の低下に伴い、主権者教育や高校新設科目「公共」などへの関心が高まる中、政治リテラシーへの関心も高まっている。しかし、それらの議論は狭義の政治リテラシーへの関心が多く、古代ギリシア以来の政治思想にみられる広義の教養や政治的教養への視座がしばしば欠けている。本研究では、デモクラシーの前提となる市民的資質としての政治的教養に関する議論について、検討することで、現代の課題に対する一つの応答を試みたい。

研究成果の概要（英文）：The aim of this research is to examine the role of liberal arts education in a democracy. In Japan, with the lowering voting age from 20 to 18, citizenship education has started, but there are still many problems. Therefore this study focuses on the role of liberal arts education, the relationship between democracy and education, and the way of acquiring citizenship, in the history of political thought.

研究分野：政治思想

キーワード：政治教育 政治的教養 市民性教育 教養

## 1. 研究開始当初の背景

近年、デモクラシーを支える市民の資質に関する関心が、主権者教育や公共などの議論との関連において高まっているが、しばしば狭義の政治リテラシーの枠内において論じられる傾向がある。しかし、本来、政治思想史の文脈において政治リテラシーは、古代ギリシアのアリストテレス以来、広義の教養、政治的教養を含むものとみなされてきた。本研究では、**19**世紀以降のデモクラシーの進展する時代を主な対象として、デモクラシーの主体となる市民の政治的資質について政治的教養の思想史の一断面を探ることで、現代における市民的教養について考える手掛かりとしたい。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、デモクラシーにとっての「政治教育」の意義について、特に「教養教育」の観点から考察することである。例えば、**19**世紀イギリスでは、選挙法改正等の政治改革を背景としてデモクラシーを支える市民形成のため「政治教育」をめぐる政治思想上の議論が登場した。一方、この時代には、中産階級の力が拡大する中、科学技術中心の実証主義的世界観が影響力を増し、古典人文学を中心とする伝統的な教養は批判に晒され、他方で教養の擁護をめぐる議論も起きる。この様な中で、デモクラシーとの関連において「教養教育」の役割はどう捉えられ、いかなる役割において位置づけられたのか。以上を本研究の主な目的とするが、あわせてこれと関連した思想的研究、及び現代的課題も扱う。

## 3. 研究の方法

本研究は、デモクラシーと政治的教養の関連を論ずるため、まず、第一に、**19**世紀イギリスにおけるデモクラシーの進展期における議論として、当時の「政治教育」の議論を批判し教養に対し目を向けたマシュー・アーノルドの研究から出発し、同時代の政治教育論としての**J・S・ミル**らも含め、当時のデモクラシー論をめぐる政治教育と教養の問題を明らかにしていく。第二に、また政治思想の文脈の中に彼らの問題をおき、政治思想史における政治教育と政治的教養との関連について検討する。第三に、そもそもの問題背景にある現代の政治的教育と教養をめぐる問題に関連づけた検討を行う。

## 4. 研究成果

本研究では、デモクラシー下の市民的資質との関わりで教養教育の果たす役割について、思想史的文脈において検討した。また、基本的な関心の背景としては、現代における市民的資質の育成の観点から教養教育の役割について考えていくことであり、この視点からの研究も行った。

(1)まず、デモクラシー下の市民的資質との関わりで教養教育の果たす役割について、特に、**J.S.ミル**、マシュー・アーノルドなどを主な対象としつつ、**19**世紀イギリスの思想史的

文脈において検討した。具体的には、19世紀イギリスの思想家のマシュー・アーノルドに関する研究がある。アーノルドが当時、参加のもつ教育的効果を強調する政治教育論を批判し、より広い意味での教養ある市民のうちにデモクラシーを支える市民の資質を捉えていたという視点から、彼の教養論を考察したもので、論文や学会発表などの形で公表した。普通選挙制と学校教育との関連の議論においても、読み書き能力を選挙制の前提とする議論などに対して、文学や詩の教育などを用いたリテラシー教育の意義など、広い教養と市民との関わりが論じられている点、また新たな大学の役割などを明らかにしていった。

(2) 19世紀イギリスの文脈においては、デモクラシーを担う市民の教育が、どのように構想されたのか、シティズンシップ教育(あるいは「政治教育」)の視点から、M・アーノルドとJ・S・ミルの思想の比較を通して考察した。具体的には、ミルのいわゆる参加民主主義論とそれに対するアーノルドの立場、二人の教養論が市民の教育との関わりでもつ意味、及び国家と教育との関わりについて比較検討した。その上で、これらの議論が現代日本でもつ意味について、具体的には主権者教育における教養の役割の重要性、及び政治的中立性のもつ政治的意味などについて若干の検討を加えた。

(3) 政治的教養との関連で、ディドロ、ルソー、ヴォルテールなど、18世紀フランスの文脈も取りあげた。18世紀フランスの『百科全書』に関する研究書に関する書評として「定義することで、新しい哲学を生み出す」を執筆したが、これはフランスの教養知を代表する『百科全書』に関するものという点で本研究と繋がりのあるものである。また、辞典における「ヴォルテール」の項目の執筆も、同様に18世紀を代表するフランスの教養知を代表する著作を執筆したヴォルテールに関して執筆したものであり、本研究におけるテーマと関連する成果である。18世紀におけるフランス知の教養を代表する『百科全書』の執筆者たちに関連するものとして、「ディドロの政治思想」「ルソーの政治思想」などについても執筆した。

(4) 政治思想におけるデモクラシーの歴史との関連では、まずデモクラシーの歴史的系譜を追いながら、デモクラシーとシティズンシップ教育の関連に関わる学会発表を行った。また、デモクラシーにおける理性と感情の問題を、18世紀のフランス政治に即して検討する議論を学会報告として行ったが、これについてはデモクラシーの前提とする市民の理性と教養に関わる問題として、本研究に繋がる関心に基づくものである。共著として、熟議民主主義に関する章を執筆したが、これは本研究において市民的資質の一つとしての熟議に関する資質・問題を扱ったものとして位置づけられるものである。ここでは、熟議民主主義の前提として熟議する文化や環境の育成が必要であることなど、熟議民主主義の可能性や今後の課題について検討を行った。

(5) 本研究の背景には、日本の政治教育と政治的教養をめぐる問題があり、若者の政治式の考察を通しての、主権者教育の意義と課題に関する学会発表や、18 際選挙権の導入に関する論文等も公表した。また、地方における低投票率に関してのもの、デモクラシーと市民的資質について若者と社会との関連や対話に関することなども執筆した。また、シティズンシップ教育や教養教育に関して、自治体や地域向けの講演会などを実施する機会も多々あり、本研究の成果を地域にも様々なかたちで社会に還元している。シティズンシップ教育を考察するものから、若者の政治参加に関することまで、現代的課題に引きつけた内容のものを実施し、本研究の成果を間接的なかたちであるが社会に還元することにも努めた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 井柳美紀	4. 巻 66
2. 論文標題 公共に期待されるもの	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Voters	6. 最初と最後の頁 10-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井柳美紀	4. 巻 50
2. 論文標題 地方選挙の低投票率を考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Voters	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井柳美紀	4. 巻 161/23
2. 論文標題 若者と社会の関わり～これからのシティズンシップ教育を考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究所所報	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井柳美紀	4. 巻 3370
2. 論文標題 書評『百科全書の時空』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井柳美紀	4. 巻 21
2. 論文標題 19世紀イギリスにおけるデモクラシーと教養－M・アーノルドの教養論を中心に－	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 法政研究	6. 最初と最後の頁 127-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miki Iyanagi	4. 巻 21
2. 論文標題 Lowering the Voting age to 18 in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 法政研究	6. 最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 井柳美紀
2. 発表標題 デモクラシーの系譜におけるデジタルデモクラシー
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井柳美紀
2. 発表標題 主権者教育における高大連携の可能性
3. 学会等名 日本教育学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井柳美紀
2. 発表標題 デモクラシーにおける理性と感情：18世紀フランス政治思想の視点から
3. 学会等名 日本政治思想学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Miki Iyanagi
2. 発表標題 主権者教育の意義と課題～若者の政治意識の考察を通して～
3. 学会等名 The International Conference on the Humanities Concern and Practice in Social Science: Comparative Studies Between Taiwan and Japan（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井柳美紀
2. 発表標題 主権者教育の意義と課題～若者の政治意識の考察を通して～
3. 学会等名 社会科教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 井柳美紀
2. 発表標題 デモクラシーと教養～マシュー・アーノルドを中心に～
3. 学会等名 第24回東海地区政治思想研究会
4. 発表年 2016年

## 〔図書〕 計6件

1. 著者名 井柳美紀	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 201
3. 書名 『よくわかる政治思想』（執筆部分は「デイドロ」38-39）	

1. 著者名 井柳美紀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 442
3. 書名 『現代フランス哲学入門』（執筆部分は「デイドロの政治思想」「ルソーの政治思想」4-6）	

1. 著者名 井柳美紀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 442
3. 書名 「ルソーの政治思想」「デイドロの政治思想」（川口・越門・三宅編『現代フランス哲学入門』）	

1. 著者名 井柳美紀（関口正司・編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風行社	5. 総ページ数 288
3. 書名 『政治的リテラシーを考える～市民教育の政治思想』（6章「デモクラシーの時代における市民と教養」177-206）	

1. 著者名 井柳美紀 (社会思想史学会・編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 856
3. 書名 『社会思想史事典』 (第1章「文明社会の出現」「ヴォルテール」134-135)	

1. 著者名 田中愛治・川出良枝・井柳美紀・西澤由隆 (田中愛治編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 217
3. 書名 『熟議の効用、熟議の効果』 (執筆部分は9章、179-196)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------